　京都の美大を卒業後、服地や下着、家庭用品の商品企画の仕事をしていました。
会社の近くで開催された北海道農業青年との交流会。参加費無料、おみやげつきにつられて参加し、たまたま隣に座った縁で、家族で酪農を営む青年（夫）に出会いました。
大阪での仕事も楽しく順調、結婚願望なし、北海道や農業に憧れていたわけでもなく、動物好きでもない。幼少期からアレルギー持ちでホコリや、牧草の花粉もだめ。全く自分には向いていない仕事だとはじめから思っていましたが、寒さの厳しい冬を選んで半年間、牧場暮らしを体験させてもらったのち、夫と両親の人柄が良かったしナァ。それだけで結婚しました。学校を卒業して13年間、実家暮らしのパラサイトOLで自分の好きな仕事を自由にやらせてもらい、商品を買ってくれる人のために、とは考えたことはあっても、目の前のこの人のために、とは考えたこともない人生。乳牛200頭を両親と夫、三人で休みなく面倒をみているのを目の当たりにし、向いてないなりにも手伝ってみるか、と新しい価値観が芽生えたのでした。デザインの仕事はどこでもできるしネ、と。

夫と出会ってすぐの頃、牛乳は余剰生産気味でした。買い取ってもらえる乳量が決められて、オーバーしたものは廃棄、乳価も下がり、北海道の酪農家はみんな困っていました。
わが町、標茶町も牛乳の消費促進を訴えかけることになり、牛乳消費促進キャラクターを作ったら？なんて役場の女性と話していたら、じゃあ、お願いします！と言われて、「牛乳を食べよう！」というキャッチコピーとともにミルクックさんを描きました。役場だよりにちょこっと載るだけのミルクックさんでしたが、もう15年ほど皆さんに可愛がっていただき、牛乳の余剰問題が解決してからは、ゆるキャラブームが到来。着ぐるみも作ってもらえ、地元のおいしい牛乳、しべちゃ牛乳のパッケージにもなって、町おこしに参加しています。

このことがきっかけで、どこからともなく販売促進のシールやチラシや名刺のデザイン、ご当地マップ、会社のロゴマークなどを作ってもらえるのかな？という相談がぽつぽつ来るようになりました。聞けば、業者に頼むほど大きい内容でもないし、頼むにしてもどうしたらいいのか、気軽に相談できる所がない。都会と違い、隙間を埋める役割がまだまだ空いた状態なのでした。相手の話しを聞くうちに、私で良ければやりますよ。酪農仕事の合間にやるので時間はかかりますが。都会でのデザイン料をそのまま当てはめるのはおかしいから、物々交換ならやります。と申し出ました。

これまでに、プリンのシールと有精卵、クリスマスケーキのチラシと焼き菓子、運送会社の名刺と奥様の手作りパン、和肉の紹介文とそのお肉など、どれも心を込めて作られたものと交換していただきました。私はたまたまデザインでしたが、交換するものは、得意料理や秘伝のレシピを教えることでもいいし、家庭菜園のコツ、除雪、まき割りのような作業でもいい。自分を発揮できる事ならなんでもいい。それが嬉しく、しみじみありがたいのです。大阪では考えもしなかった物々交換。同じ町に住んでいるだけで、みんな知り合いのような田舎ならではのコミュニケーションの素晴らしさを知るところとなりました。厳しい自然と共存しながら、おのおのができること持ち寄って助け合って、なんも、なんも（なんでもないよ、という方言）と生活してきた北海道の人たち。外が寒い分も人の温かさが染みるのでした。

こう書いてくると、移住、転職、結婚生活は順調にすべりだしたかのように思えますが、そうでもありません。酪農仕事の方も熱心に取組んだ私でしたが、家族経営（上司が親）の難しさ、休日のない労働環境、家族以外の誰にも会わない生活、頼れる身内がひとりもいない孤独、農家の長男の特殊性、に悩まされることになります。大阪人ならではの愛ある毒舌とユーモアをもってのちのち語っていきますが、これらの悩みを少し軽くしてくれたのが、デザインを介してのコミュニケーションでした。まだ居場所がなかった、まわりに助けられるだけの自分にできる事があったこと、出来上がったデザインを見せたときに相手の顔がパッと明るくなる瞬間に、初めて大きく息を吸えたのです。困っている人の手助けをしたつもりでしたが、救われたのは私の方でした。

このたび連載のご依頼をいただいた時、家の仕事なので、内容が家族の話になってしまうことに迷いがありましたが、移住、転職、結婚の岐路に同じような思いでいる人の、手がかりになることがあれば、と思って日々のつれづれの記録、感じたままのことを書いていくことにします。夫も少し考えたのち、いいよ、と快諾してくれました。

筆者　　原田　希　ハラダ ノゾミ

1973年 大阪府吹田市生まれ
2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ移住。自身も酪農家に。
2017年 北海道農業士に認定
北海道指導農業士の夫とともに、新規就農者の支援や、
女性の農業者向けの勉強会、道外からのお嫁さんの会のお世話係を担当